

茨城県立伊奈学校 年間指導計画（国語）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理国語	1	全日制・普通科・2学年（文系）	論理国語（数研出版）

科目の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	評論に親しむ	B読むこと	4	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。（(1)ア） ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。（B(1)ア） ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開を把握しながら、筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「環境が求める自分の姿に、定期的にノイズを忍び込ませる」とはどういうことか読み取る。 ・「弱いリアルがあって、初めてネットの強さを活かせる」とは、どういうことか考える。	「ノイズに満ちた」「弱い絆」はどのようにしたらできるか、自分の考えをまとめる。	「弱いつながり」（東浩紀） チェックポイント1主張の明確化
5月	逆説	A書くこと	4	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。（(1)イ） ② 思考・判断・表現 自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。（A(1)イ） ③ 主体的に学習に取り組む態度 自分の意見と根拠を明確にしながら、意見文を書こうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「『驚き』が知的探究を動機づける」とはどういうことかを説明する。 ・筆者が本文を通して高校生に伝えようとしていることを考える。	・筆者の主張に対する自分の意見を、400字以内でまとめる。	「胆力について」（内田樹） 総合的な探究の時間との関連
6月	具体と抽象	B読むこと	4	① 知識・技能 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。（(1)エ） ② 思考・判断・表現 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。（B(1)エ） ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開を把握しながら、筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「『中間社会』の崩壊」した社会とは、どのような社会かをまとめる。 ・グローバリズム・ナショナリズム・宗教的原理主義に共通する問題点を考える。 ・「深い実存的なコミュニケーション」とはどのようなものかを考える。	・個人と社会のつながりについて、話し合う。	「『内的成長』社会へ」（上田紀行） ズームアップ 「資本主義社会と本当の『豊かさ』」 公共との関連

9月	言葉と想像	B読むこと	4	① 知識・技能 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。((1)ウ)	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「もう一つの言葉」とはどのような言葉をまとめる。 ・筆者は言葉が「国境を越える」とはということだと考えているかを考える。	・外国人の言葉や外国作品の中から心に残る表現を選び、紹介する。	「国境を越える言葉」(長田弘) 探究の扉 「ニュースとコミュニケーション」 文学国語 世界史探究との関連					
				② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。(B(1)ア)									
				③ 主体的に学習に取り組む態度 資料を参考にしながら自分の考えを深めようとする。									
10月	近代と現代の視点	A書くこと	4	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとする。((1)イ)	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・本文中の例を用いて「共有地の悲劇」「経済学者の論理」について具体的に説明する。 ・筆者が「立派に『悪魔』としての役割を果たした」と記述する理由を考える。	・「未来世代への責任」という題で自分の意見を書く。	「未来世代への責任」(岩井克人) ズームアップ 「地球環境問題」					
				② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。(A(1)エ)									
				③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を踏まえて、具体的に根拠が述べられている意見文を書こうとする。									
11月	近代と現代の視点	B読むこと	4	① 知識・技能 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。((2)イ)	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「広い意味での『科学・技術』」「狭い意味での『科学・技術』」の性質をそれぞれ整理する。 ・科学が「否応なく、共同体の外部の一般社会との間に、強い絆を持たざるを得なくなった」理由を説明する。	・「科学は最も重要な国家に奉仕する『道具』としての意味合いを持たされている」ことについて、筆者はどのように考えているか。また、自分たちはどのように考えるか、話し合う。	「科学・技術の歴史の中での社会」(村上陽一郎) チェックポイント4文体と構成					
				② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。(B(1)ア)									
				③ 主体的に学習に取り組む態度 文章読解を通して、多面的に評価しようとする。									
1月	情報と社会	A書くこと	5	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。((1)エ)	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「スポーツと社会」の関係について筆者の主張をまとめる。 ・強調表現について調べる。	・「消費されるスポーツ」について、資料を踏まえて自分の意見をまとめる。	「消費されるスポーツ」(多木浩二) 体育との関連					
				② 思考・判断・表現 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。(A(1)ウ)									
				③ 主体的に学習に取り組む態度 資料を参考にしながら自分の考えを深めようとする。									
3月	言葉と思考	B読むこと	5	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。((1)エ)	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・環境問題の解決を目指す際「かけがえのなさ」という客観的で普遍的な価値を重視することのメリットとデメリットについてまとめる。 ■	・筆者が危惧する現代社会の「食」について具体的な例を一つあげ、その特徴を説明する。	「野生の『クジラ』と人間の『鯨』」(関陽子) チェックポイント 情報の視覚化 解説 思考ツール					
				② 思考・判断・表現 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。(B(1)									
				③ 主体的に学習に取り組む態度 対比や具体例をまとめながら、筆者の主張を捉えようとする。									
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと												
	書くこと		14										
	読むこと		21										
指導時間数の合計			70										

茨城県立伊奈学校 年間指導計画（国語）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理国語	2	全日制・普通科・2学年（理系）	論理国語（数研出版）

科目の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	評論に親しむ	B読むこと	4	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。（(1)ア） ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。（B(1)ア） ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開を把握しながら、筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「環境が求める自分の姿に、定期的にノイズを忍び込ませる」とはどういうことか読み取る。 ・「弱いリアルがあって、初めてネットの強さを活かせる」とは、どういうことか考える。	「ノイズに満ちた」「弱い絆」はどのようにしたらできるか、自分の考えをまとめる。	「弱いつながり」（東浩紀） チェックポイント1主張の明確化
	逆説	B読むこと	4	① 知識・技能 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。（(1)ウ） ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。（B(1)ア） ③ 主体的に学習に取り組む態度 多面的な捉え方について理解しながら筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・筆者の着眼点のおもしろさをまとめる。 ・「なぜ、失われたものが両腕でなければならないのか？」に対する筆者の答えはどのようなものか、考える。	・「筆者のとらえ方」について、賛成か反対かを、理由とともに意見発表する。	「手の変幻」（清岡卓行） 地理探究 世界史探究 美術との関連
5月	逆説	A書くこと	4	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。（(1)イ） ② 思考・判断・表現 自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。（A(1)イ） ③ 主体的に学習に取り組む態度 自分の意見と根拠を明確にしながら、意見文を書こうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「『驚き』が知的探究を動機づける」とはどういうことかを説明する。 ・筆者が本文を通して高校生に伝えようとしていることを考える。	・筆者の主張に対する自分の意見を、400字以内でまとめる。	「胆力について」（内田樹） 総合的な探究の時間との関連
6月	具体と抽象	B読むこと	5	① 知識・技能 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。（(1)エ） ② 思考・判断・表現 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。（B(1)エ） ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開を把握しながら、筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「『中間社会』の崩壊」した社会とは、どのような社会かをまとめる。 ・グローバリズム・ナショナリズム・宗教的原理主義に共通する問題点を考える。 ・「深い実存的なコミュニケーション」とはどのようなものかを考える。	・個人と社会のつながりについて、話し合う。	「『内的成長』社会へ」（上田紀行） ズームアップ「資本主義社会と本当の『豊かさ』」 公共との関連
	具体と抽象	B読むこと	5	① 知識・技能 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。（(1)エ） ② 思考・判断・表現 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。（B(1)オ） ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章における具体と抽象の役割を理解しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・事物を抽象的にとらえることの利点をまとめる。 ・筆者は言葉について、どのような性質を持つと述べているか。言葉の長所と短所をまとめながら考える。	・日常生活における「抽象的思考」の例を考えて発表する。	「『具体』から『抽象』へ」（森博嗣） チェックポイント2定義と抽象化 数学との関連
7月	言葉と想像	A書くこと	4	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。（(1)エ） ② 思考・判断・表現 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さ確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。（A(1)オ） ③ 主体的に学習に取り組む態度 自分の主張が的確に伝わるように、推敲して文章を作成しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「近代芸術と言われるものには添削の思想が欠如している」とは、具体的にどういうことか考える。 ・「表現の普遍化」「古典化」とは具体的にはどういうことかをまとめる。	・本文の内容を踏まえて、添削を受けるときの態度、または他人の作品を添削するときの態度について、自分の考えを400字程度で書く。	「添削の思想」（外山滋比古）

10月	9月	言葉と想像	B読むこと	5	① 知識・技能 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。(1)ウ) ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。(B(1)ア) ③ 主体的に学習に取り組む態度 資料を参考にしながら自分の考えを深めようとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「もう一つの言葉」とはどのような言葉をまとめる。 ・筆者は言葉が「国境を越える」とはどういうことだと考えているかを考える。	・外国人の言葉や外国作品の中から心に残る表現を選び、紹介する。	「国境を越える言葉」(長田弘) 探究の扉 「ニュースとコミュニケーション」 文学国語 世界史探究との関連
	10月	近代と現代の視点	A書くこと	4	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとする。(1)イ) ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。(A(1)エ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を踏まえて、具体的に根拠が述べられている意見文を書こうとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・本文中の例を用いて「共有地の悲劇」「経済学者の論理」について具体的に説明する。 ・筆者が「立派に『悪魔』としての役割を果たした」と記述する理由を考える。	・「未来世代への責任」という題で自分の意見を書く。	「未来世代への責任」(岩井克人) ズームアップ 「地球環境問題」
	11月	近代と現代の視点	B読むこと	5	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報の関係について理解を深めている。(2)ウ) ② 思考・判断・表現 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。(B(1)ウ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 意味段落に分けながら筆者の主張を捉え、批判的に読もうとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・五つの意味段落に分け、それぞれに小見出しをつける。 ・「私たちはそのような『近代』の、いわば出口の時代を生きている」とはどういうことか、説明する。 ・「知識循環型社会」とは具体的にどのようなものかをまとめる。	・「ネット情報」と「図書館の本」のように、本文中で二項対立的に用いられている語句を抜き出す。	「〈近代〉の入口と出口の間」(吉見俊哉) チェックポイント 3語彙
	11月	近代と現代の視点	B読むこと	5	① 知識・技能 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。(2)イ) ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。(B(1)ア) ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章読解を通して、多面的に評価しようとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「広い意味での『科学・技術』」「狭い意味での『科学・技術』」の性質をそれぞれ整理する。 ・科学が「否応なく、共同体の外部の一般社会との間に、強い絆を持たざるを得なくなった」理由を説明する。	・「科学は最も重要な国家に奉仕する『道具』としての意味合いを持たされている」ことについて、筆者はどのように考えているか。また、自分たちはどのように考えるか、話し合う。	「科学・技術の歴史の中での社会」(村上陽一郎) チェックポイント 4文体と構成
	12月	比べ読み	A書くこと	4	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。(2)ア) ② 思考・判断・表現 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。(A(1)オ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 二つの文章を読み比べ、科学のあり方について自分の考えをまとめようとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	「科学の現場」 ・「私にとっての科学」「抽象名詞としての科学」についてまとめる。 「科学と生命」 ・筆者の主張を本文に即してまとめる。 ・双方の文体と構成について、共通点と相違点をまとめる。	・これからの科学のあり方について、二つの文章を踏まえて、400字程度で自分の考えをまとめる。	探究の扉 「科学の現場」(坂井克之) 「科学と生命」(中屋敷均)
	12月	情報と社会	B読むこと	5	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。(1)ア) ② 思考・判断・表現 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。(B(1)イ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章全体の構成を確認しながら、論点と要旨を把握する。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「映像」に関わる出来事を、時間の流れに沿って過去から未来へと整理する。 ・出来事に対応させて、人々や群衆のあり方を整理する。 ・言葉の意味・用例を調べ、短文を作成する。 ・「待機する群衆」の潜在力について考える。	・「情報化社会」について調べスライドにまとめて発表する。	「疑似群衆の時代」(湊千尋) 情報との関連
	1月	情報と社会	A書くこと	5	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。(1)エ) ② 思考・判断・表現 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。(A(1)ウ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 資料を参考にしながら自分の考えを深めようとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「スポーツと社会」の関係について筆者の主張をまとめる。 ・強調表現について調べる。	・「消費されるスポーツ」について、資料を踏まえて自分の意見をまとめる。	「消費されるスポーツ」(多木浩二) 体育との関連
	2月	言葉と思考	A書くこと	5	① 知識・技能 新たな考えの構築に資する読書に意義と効用について理解を深めること。(3)ア) ② 思考・判断・表現 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考にして、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う。(A(2)ウ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 表現のしかたや論理性を検討しながら文章を作成する。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返りシート 等	・「日本人が非論理的だと言われる」理由についてまとめる。 ・「日本人のコミュニケーションの技術」について本文に即して説明する。	・今後どのようなコミュニケーションを心がけるべきか。筆者の考えも踏まえて自分の意見を書く。	「日本語は非論理的か」(野矢茂樹) ズームアップ 「日本文化を理解する」

3月	言葉と思考	B読むこと	5	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。 (I)エ ② 思考・判断・表現 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。(B(1)カ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 対比や具体例をまとめながら、筆者の主張を捉えようとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・環境問題の解決を目指す際 「かけがえのなさという客観的で普遍的な価値」を重視することの メリットとデメリットについてまとめる。 ■	・筆者が危惧する現代社会の「食」について具体的な例を一つあげ、その特徴を説明する。	「野生の『クジラ』と人間の『鯨』」(関陽子) チェックポイント 情報の視覚化 解説 思考ツール
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと							
	書くこと		27					
	読むこと		43					
指導時間数の合計			70					

茨城県立伊奈学校 年間指導計画（国語）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる						
教科の目標		○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)						
科目名		単位数	課程・学科・学年			使用教科書名(出版社)		
文学国語		2	全日制・普通科・2学年(文系)			文学国語(数研出版)		
科目の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)						
時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横 断的な視点等
4月	文学の扉	読む	5	① 知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。〔B(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・本文全体から、虎になる前の李徴の人柄を箇条書きで整理し、文章でまとめる。 ・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。 ・作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜかを考える。	作品設定の意図を考察し、説明する。	「山月記」 中島敦 日本史探究 「原始・古代の日本と東アジア」との関連
5月	平成の小説	書く	4	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿ってスピーチをしようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「私の住むことになった部屋」は、どのような部屋だったかをまとめる。 ・「母」に対する「私」の心情は、どのように変化しているかを時系列に沿ってまとめる。 ・「私」にとって、「鍋セット」とは何であったかを考える。 ・誰かからの贈り物で、大切にしているものを提示して、三分程度のスピーチをする。	作品内容を踏まえて原稿を作成しスピーチをする。	「鍋セット」 角田光代 公共「公共の扉」との関連
		読む	4	① 知識・技能 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「無用の人」という題名の意味について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「私」の人物像を整理する。 ・「私」の心情変化をまとめる。 ・「私」は「父」の人生がどのようなものであったと考えているかを説明する。 ・「私」の「父」を指す「無用の人」という言葉はどのような意味で用いられていると考えられるかを説明する。	題名の意味を考察し、説明する。	「無用の人」 原田マハ 公共「公共の扉」との関連
6月	昭和後期の小説	読む	4	① 知識・技能 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 登場人物の心情と行動の関連性について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・新道少年野球団のナインについてまとめる。 ・正太郎くんに対して、中村さんと英夫くんは、それぞれどのような思いをいだいているかを説明する。 ・「あんな思いをしたのは、あのときだけです」という「強い口調」からは、英夫くんのどのような心情がうかがえるか、「あんな思い」の内容を明らかにして説明する。 ・正太郎くんはどのような人物だと考えられるか、本文の出来事を踏まえて説明する。 ・正太郎くんを許した英夫くんと常雄くんの心情は、少年野球大会の決勝で正太郎くんが日陰を作ってくれたエピソードとどのように関連しているかを説明する。	登場人物の心情と行動の関連性を考察し、説明する。	「ナイン」 井上ひさし 公共「公共の扉」との関連
		読む	4	① 知識・技能 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 冒頭と英文と最後の一文が作品全体に対して持つ意味合いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「父親」の「息子」に対する心情を説明する。 ・「父親」と「息子」の関係について説明する。 ・冒頭の英文「March winds and April showers bring May flowers」と、最後の一文「その昔自分にもそんなことがあったのを父親は思い出している」は、作品全体に対してどのような意味を持っているかを話し合う。	冒頭の英文と最後の一文が作品全体に対して持つ意味を話し合う。	「三月の風」 阿部昭 英語コミュニケーションⅡ「読むこと」との関連

7月	昭和初期の小説	読む	5	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 考えを整理して山椒魚の考え方や行動に対する感想を述べ、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート等	・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。 ・山椒魚の考え方や行動について、どのような感想を持ったかを話し合う。	作品内容を踏まえて、登場人物の考え方や行動に対する感想を話し合う。	「山椒魚」 井伏鱒二 公共「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」との関連
			5	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「僕」が「水仙の絵」を引き裂いた理由を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして文章にまとめようとしている。				
	昭和初期の小説 読み比べ	読む	1	① 知識・技能 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔2ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)キ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く『水仙』と『忠直卿行状記』の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート等	・『忠直卿行状記』について整理する。 ・「僕」は静子夫人のどのような点を忠直卿と重ねているかを考える。 ・静子夫人を忠直卿に重ねたとき、「僕の役割」はどのようなものだったかを考える。 ・「僕」が「静子さんの絵を見なくなった」のはなぜかを考える。 ・「僕」が「静子さんの絵を見なくなった」時の「僕」の心情を考える。 ・「僕」が「水仙の絵」を引き裂いたのはなぜだと考えられるか、自分の意見をまとめる。	作品展開を踏まえて、主人公の行動の理由をまとめる。	「水仙」 太宰治 英語コミュニケーションⅡ「読むこと」との関連
9月	大正の小説	読む	8	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート等	・「私(＝先生)」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。 ・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。 ・作品の主題を話し合う。	作品の主題を話し合う。	「こころ」 夏目漱石 日本史探究 「近現代の地域・日本と世界」の関連
			2	① 知識・技能 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使えている。〔1エ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している〔B(1)ウ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 作品が持つリズムや文体が与える印象を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。				
10月	詩歌	読む	2	① 知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔1ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。〔B(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート等	・「雲白く遊子悲しむ」の悲しみの内容はどのようなものかを説明する。 ・詩を音読し、そのリズムや文語体にどのような印象を受けたかを話し合う。	詩のリズムと文語体から受ける印象を話し合う。	「小諸なる古城のほとり」 島崎藤村 英語コミュニケーションⅡ「話すこと(やりとり)」との関連
			2	① 知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔1ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。〔B(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。				
11月	詩歌／短歌	書く	4	① 知識・技能 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔2ア〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート等	・それぞれの歌について、句切れやリズムに注意しながら、声に出して読む。 ・それぞれの歌で工夫された表現を確認し、感動の中心はどこかを考える。 ・印象に残った歌を選んで、鑑賞文を二百字程度で書く。	短歌の鑑賞文を書く。	斎藤茂吉 釈迢空 斎藤史岡 井隆河野 裕子 佐佐木幸綱 栗木京子 水原紫苑 英語コミュニケーションⅡ「書くこと」との関連
			4	① 知識・技能 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔2ア〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したり				

12月	詩歌／俳句	書く	4	① 知識・技能 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 [(2)ア] ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。 [A(1)ウ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に俳句の創作に取り組み、見通しを持って、句会に参加しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・それぞれの句について、間のと り方や緩急などを工夫しながら、 声に出して読む。 ・それぞれの句で工夫された表 現を確認し、感動の中心はどこ かを考える。 ・自分でも俳句を作り、クラスで句 会を開催する。	俳句を創作し、句会を開催 する。	高浜虚子 尾崎放哉橋 本多佳子西 東三鬼篠原 鳳作石田波 郷金子兜太 鷹羽狩行 英語コミュニケー ションⅡ「書くこ と」との関連				
	文学的文章の創作	書く	7	① 知識・技能 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 [(1)イ] ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 [A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 『物語のおわり』の中で『空の彼方』という小説がどのような機能を持っているかを踏まえ、学習課題に沿って『空の彼方』の結末を創作しようとしている。								
1月	文学的文章の創作	書く	7	① 知識・技能 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 [(1)イ] ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 [A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 『物語のおわり』の中で『空の彼方』という小説がどのような機能を持っているかを踏まえ、学習課題に沿って『空の彼方』の結末を創作しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「そんな状況」とは、どの ような状況かを「僕」の家族 の現状を説明しつつまとめ る。 ・「工場を継いでくれ」と頼 まれるのと、「拓真のため に、お父さんが決めたことな のよ」と言われるのとは、 「僕」の心情にはどのような 違いが生じるかを考える。 ・「僕」の考える『空の彼 方』の結末を読み取る。 ・『空の彼方』を読み思索を めぐらしたことで「僕」が気 づいた自身の欠点は、どのよ うなことを説明する。 ・『空の彼方』を読む前と、 読んだ後で「紙束を置き、カ メラを手にとった」ときと で、「僕」の心情はどのよう に変化したかを説明する。 ・『空の彼方』の結末を自由 に考え、八百字程度で書く。	作品中の物語の続きを創作 する。	「物語の終わり」 湊かなえ 英語コミュニケー ションⅡ「読むこ と」との関連				
2月	古典と現代語訳	読む	6	① 知識・技能 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 [(1)ウ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 [B(1)ウ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 つの現代語訳の違いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かしてまとめようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・三つの現代語訳には、表現上 どのような違いがあるか、原文を 参照しつつ、比較の観点ごとに 分けてまとめる。	古典の現代語訳を読み比 べ、表現方法の違いをまと める。	「源氏物語」 与謝野晶子 訳 谷崎潤一郎 訳 角田光代 訳 日本史探究 「原始・古代の日 本と東アジア」と の関連				
	古典と現代語訳 読み比べ	読む	1	① 知識・技能 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 [(2)ア] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [B(1)キ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く『窯変源氏物語』と『源氏物語』の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。								
3月	文学評論	読む	4	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [B(1)カ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・本文にあげられた三つの物語 について、筆者はどのような点に 着目しているかをそれぞれまとめ る。 ・「そこでは、モラルがない、とい うこと自体がモラルなのだ」「むご たらしいこと、救いがないというこ と、それだけが、唯一の救いなの であります」「ふるさとは我々のゆ りかごではあるけれども、大人の 仕事は、決してふるさとへ帰るこ とではない」とはどういうことか を、それぞれ説明する。 ・筆者は「文学のふるさと」をどの ようなものとしてとらえ、文学をど う扱っていかなければならないと 考えているかをまとめる。 ・筆者は「伊勢物語の一つの話」 を、どのように評価しているかを 二百字以内で書く。	筆者の主張を読み取り、文 章にまとめる。	「文学のふるさ と」 坂口安吾				
領域 時間 数と の 計 指 導	書くこと		19									
	読むこと		51									
指導時間数の合計			70									

茨城県立伊奈学校 年間指導計画（国語）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
古典探究		3	全日制・普通科・2学年(文系)		高等学校 古典探究(数研出版)			
科目の目標		○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。（知識及び技能） ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）						
時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	説話	読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ]	行動の確認	・「丹後へ遣はしける人は参りたりや」とは、どのようなことを言おうとしたのか説明する。 ・「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 ・「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」とは、誰がなぜそのようにしたのか説明する。 ・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。	本文に示された教訓について話し合う。	『十訓抄』 「大江山」 【古文チェックポイント1】係助詞の用法
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 [A(1)ウ]				
				③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。				
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ]	行動の分析	・『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。 ・忠見のあり方をどのように評価するか、話し合う。	登場人物の生き方について評価し話し合う。	『沙石集』 「兼盛と忠見」 【ズームアップ】説話文学 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)カ]				
				③ 主体的に学習に取り組む態度 忠見の歌にかける情熱を自ら進んで評価し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。				
5月	故事	読む	8	① 知識・技能 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 [(2)ウ]	行動の観察	・訓読で教材を朗読する。 ・音読みによる直読で教材を朗読する。 ・口語訳で教材を朗読する。 ・三種類の朗読から受ける印象の違いを話し合う。	「音読みによる直読」「文語文による訓読」「口語訳」の朗読を比較して、朗読から受ける印象の違いを話し合う。	貫履忘度 漱石枕流 華歆・王朗 画竜点睛 江南橋為江北枳 【ズームアップ】訓読の歴史 【漢文チェックポイント1】漢文の語順 世界史探究「C
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)ク]				
				③ 主体的に学習に取り組む態度 朗読から受ける印象の違いを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加している。				
	歌物語	読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ]	記述の分析	・それぞれの歌について修辞法を確認する。 ・「男」が着ていた「狩衣の裾」を切り取って歌を書いたのはなぜか、考える。 ・「かくいちはやきみやび」とは「男」のどのような言動を指して言ったものか、説明する。 ・「春日野の……」の歌と「みちのくの……」の歌の類似点・相違点を考える。	本文中の和歌と本歌の類似点・相違点を考察する。	『伊勢物語』 「初冠」 【古文チェックポイント2】まぎらわしい語の識別 日本史

6月		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)オ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 男の心情変化について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・「男」が「をば」を捨てるに至った経過を整理する。 ・「をば」を捨てた後再び迎えに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。	登場人物の心情について話し合う。	『天和物語』 「をばすて山」 【ズームアップ】十世紀の物語 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
	漢詩	読む	5	① 知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 [(1)エ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 [A(1)ア] ③ 主体的に学習に取り組む態度 春に関する漢詩を習作する活動において、積極的に課題に取り組んでいる。	記述の確認	・単元内の教材の学習を踏まえて、漢詩の規則を確認する。 ・「春」をテーマとした七言絶句を作る。	漢詩の習作に取り組む。	中国の詩 日本の詩 【ズームアップ】漢詩を作ってみよう
	随筆(一)	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 「すさまじ」の意味変遷の歴史について進んで調べ、学習の見通しをもって本文理解を深めようとしている。	記述の分析	■ 第二段落では、何が「すさまじきもの」とされているか。まとめる。 ・「ゆるぎありきたるも、いとをかし。すさまじげなり」とはどういうことか。説明する。 ・現代語「すさまじい」の意味を調べ、古語「すさまじ」からの意味変遷の歴史をまとめる。	語句の意味変遷の歴史をまとめる。	【参考】春はあけぼの 『枕草子』 「すさまじきもの」
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・「姨捨山の月は、いかなる人の見けるにか。」という表現で伝えていることは何か、清少納言の発言との関わりで説明する。 ・「わるかめれば、寿命経も、え書くまじげにこそ」とは何を清少納言に伝えようとしているのか、説明する。 ・「かけまくも……」の歌について、掛詞を指摘して、歌を訳す。	登場人物の行動や心情を説明する。	『枕草子』 「御前にて人々とも」 【古文チェックポイント3】さまざまな敬語表現
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・「うたて、何しにさ申しつらむ」とは、誰のどのような気持ちを表しているか、説明する。 ・作者以外の女房たちが、その時々状況に応じてどのような行動をとったか、順にまとめる。 ・「ただ人のねぶたかりつる目もいと大きになりぬ」とあるが、どういうことか、説明する。	登場人物の行動や心情を説明する。	『枕草子』 「大納言殿参り給ひて」 【ズームアップ】随筆文学
	日記文学(一)	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に作者の心情をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・物語を読みたいと思う気持ちが表れている表現を順に抜き出す。 ・「人知れずうち泣かれぬ」という作者の気持ちを説明する。	作者の心情を説明する。	『更級日記』 「東路の道の果て」 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
7月		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めてい ③ 主体的に学習に取り組む態度 『源氏物語』の「夕顔」や「浮舟」について進んで調べ、学習課題に沿って本文理解と自分の考えを深めようとしている。	記述の分析	・作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 ・「いとはかなく、あさまし」というのは、いつの時点のどのような気持ちを表現したのか、考える。 ・『源氏物語』に登場する「夕顔」や「浮舟」がどのような女性なのか調べ、作者がこの二人を取り上げた理由を考える。	作者が影響を受けた物語の登場人物について調べる。	『更級日記』 「物語」 【ズームアップ】受領層の娘たち 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
史伝	読む	6	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めるている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 本文から読みとった項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性をもって話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。 ・「四面楚歌」「項王自刎」の読解を踏まえ、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	劉邦が鴻門から脱出することができた理由と、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	鴻門之会 四面楚歌 項王自刎 【ズームアップ】項羽と劉邦 【漢文チェックポイント2】兼語文 世界史探究「C 諸地域の交流・再編」	

9月	物語	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)オ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。	登場人物の心情と人物像について話し合う。	『源氏物語』 「光源氏誕生」
		読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・藤壺が入内したことで、桐壺帝はどのように変わったか、説明する。 ・藤壺はまわりの女御・更衣からどのように見られていたか、説明する。 ・藤壺に対する光源氏の心情を説明する。	登場人物の行動や心情を説明する。	『源氏物語』 「藤壺の入内」
		読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたどっているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。 ・光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。	登場人物の行動や心情を説明する。	『源氏物語』 「小柴垣のもと」 【ズームアップ】『源氏物語』の魅力
		読む	1	① 知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 [(1)エ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・「世の中にある人と栖と、またかくのごとし」について、「人と栖」が何とどのようになのか、説明する。 ・「無常」に対する作者の考えについて、説明する。	作者の心情について説明する。	『方丈記』 「ゆく河の流れ」 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連

10月	随筆(二)	読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 『方丈記』の教科書掲出箇所以外について積極的に読み、学習課題に沿って考察に取り組もうとしている。	記述の分析	・本文を五段に分け、それぞれに小見出しをつける。 ・『方丈記』に描かれたさまざまな災害のありさまを読んで、現代に通じる『方丈記』の価値について考える。	現代に通じる古典作品の価値について考察する。	『方丈記』 「養和の飢饉」 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・作者の家の様子や周囲の環境と、そこにおける生活の様子をまとめる。 ・作者はなぜこの作品を『方丈記』と名付けたのか、考える。	本文の内容を説明し、作品名の由来を考察する。	『方丈記』 「閑居の気味」 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 主体性をもって作品内容を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の分析	・「長くとも、四十に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ」と作者が言う根拠について、整理する。 ・この文章の主題を表している一文を抜き出す。 ・命が永遠ならば「いかにものあはれもなからん」という作者の考え方に賛成の意見・反対の意見を出し合い、話し合う。	作者の考え方に賛否の意見を出し、話し合う。	『徒然草』 「あだし野の露」
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・登場人物とそれぞれの性別を確認する。 ・作者はどのようなことに心ひかれているのか考える。	作者の心情について考察する。	『徒然草』 「九月二十日のころ」
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く本文の内容を読み解き、学習の見通しをもって作者の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・本文で述べられている「月の見所」「花の見所」をまとめる。 ・「男女の情け」における「始め終はり」とは、どのような状態を言うのか説明する。	本文の内容について説明する。	『徒然草』 「花は盛り」に」 【探究の扉】 兼好法師が詞のあげつらひ

12月	歴史物語	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。	記述の確認	・「さり」と「さりとて」「さりととも」「さること」の「さり」「さる」が指す内容を説明する。 ・花山天皇の出家はどのように行われたのか、道兼の行動に注意しながらまとめる。 ・花山天皇と道兼の人物像をまとめる。	登場人物の行動と人物像について考察する。	『大鏡』『花山天皇の出家』 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や語り手の心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・本文を「出来事」「事後の公任の感想」「語り手の感想」の部分に分ける。 ・「かばかりの詩……まさりなまし」という言葉が発せられた理由について説明する。 ・「小倉山……」の和歌はどのような点が評価されたのか、考える。	文章の構成を整理し、内容を説明する。	『大鏡』『三船の才』 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
1月	軍記物語	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 忠度の心情について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・忠度が俊成のもとを訪れた際の、俊成とその家人との反応の違いについて説明する。 ・「情けもすぐれて深う、あはれもことに思ひ知られて」について、俊成は忠度のどこについて、俊成は忠度のどこについて、このように述べているのか説明する。 ・「前途程遠し、思ひを雁山の夕べの雲に馳す」という朗詠を行った時の忠度の心情を想像し、話し合う。	登場人物の心情について話し合う。	『平家物語』『忠度の都落ち』 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえながら本文を解釈し、学習課題に沿って朗読劇に取り組もうとしている。	行動の分析	・二位殿の言葉から、安徳天皇に対するどのような思いが感じ取れるか、考える。 ・知盛の言動からどのような人物像が浮かび上がってくるか、話し合う。 ・本文の解釈を踏まえ、地の文と各登場人物に役割を分けて朗読劇をする。	本文の解釈を踏まえて朗読劇を行う。	『平家物語』『壇ノ浦』 【ズームアップ】文学と歴史の間 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連

	文章	読む	6	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めるている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「売油翁」の末尾一文の意味について、グループでの話し合いにおいて積極的に意見を発表している。	行動の観察	・単元内の教材の学習を踏まえて、道家思想が後世の文章に影響を与えた経緯を学習する。 ・「売油翁」の末尾一文の意味を、典故となる『莊子』の文章を踏まえて考え、グループで話し合う。	道家の思想が後世の文章に与えた影響を考察する。	漁父辞 桃花源記 売油翁 【漢文チェックポイント4】後置修飾語 【ズームアップ】道家思想とその影響 世界史探究「C諸地域の交流・再編」との関連
2月	日記文学(二)	読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔A(1)キ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 平資盛の逸話について進んで調べ、学習課題に沿って本文理解と自分の考えを深めようとしている。	記述の分析	・恋人の死を受けとめかねて苦しむ作者の様子がどのように表現されているか、抜き出す。 ・「なべて世の……」「悲しとも……」の歌に込められている作者の気持ちを説明する。 ・『建礼門院右京大夫集』と『平家物語』で描かれる平資盛の人物像や逸話について調べる。	複数の作品から平資盛の逸話を調べる。	『建礼門院右京大夫集』 「なべて世の」 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
		読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に作者の見たものや心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・大原の庵の周辺の様子がどのように描かれているか整理する。 ・女院の、過去の様子と現在の様子がどのように比較されているか整理する。 ・「今や夢……」「あふぎ見し……」「山深く……」の三首の歌を現代語訳し、それぞれの歌に込められている作者の思いをまとめる。	和歌から作者の心情を読み取る。	『建礼門院右京大夫集』 「大原まうで」 【ズームアップ】和歌にまつわる常識 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。	記述の分析	・作者は和歌をどのようなものにとらえているか、その本質と効用に分けて整理する。 ・作者は六歌仙の歌をそれぞれどのようにたとえて評価しているか、整理し、考える。 ・脚注にあげた六歌仙の歌について、歌意をとらえ、鑑賞文を書く。	和歌について鑑賞文を書く	『古今和歌集 仮名序』 「やまと歌は」 「六歌仙」 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連

3月	和歌・歌謡・俳諧	読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)オ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。	記述の分析	・それぞれの歌を現代語訳し、その主題を考える。 ・それぞれの歌について、表現上の特徴をあげる。 ・好きな歌を選び、鑑賞文を書く。また、作者やその歌が作られた時代について調べる。	和歌について鑑賞文を書く	『和歌・歌謡』 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	1	① 知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 [(1)エ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)オ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く各句のおもしろみや味わいを考察し、自分の考えを深めようとしている。	記述の確認	・貞徳・宗因・西鶴の関係について調べ、句のおもしろみについて考える。 ・来山と鬼貫について、どのような人物かを調べ、句の味わいについて考える。 ・芭蕉の二句について、句の感じがの違いを説明する。 ・句の上五ないしは下五に別の言葉をあてはめて、もとの句とのイメージの違いについて話し合う。 ・蕪村と一茶の句について、それぞれの俳人の表現の特徴について考え、まとめる。	俳諧の表現について考察す	『江戸俳諧・発句』 【ズームアップ】連歌という文芸 日本史探究「C 近世の日本と世界」との関連
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと							
	書くこと							
	読むこと		70					
指導時間数の合計			70					

	2 冷戦の終結と日本社会の変容		① 知識・技能 冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。 ② 思考・判断・表現 国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。	冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、調べてわかったことをまとめたり、発表したりする。	・国際経済や国際政治の動向を捉えるなど、公民科との連携を図る。
	現代日本の課題の探究 様々な災害と日本	2	① 知識・技能 過去の災害に関する諸資料を読み解いて得られた情報をもとに、現代日本の課題の形成に関わる歴史を理解している。 ② 思考・判断・表現 過去の災害に関する諸資料と、既習知識と結びつけて多面的・多角的な考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自ら主題を的確に設定し、資料を適切に解釈したうえで複数の解釈を比較・検討・選択し、充分な論理展開で叙述・表現している。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	災害を題材に、諸資料から情報を読み取って考察し、それを表現する方法を学ぶ。	過去の災害に関する諸資料を読み解いて得られた情報をもとに、現代日本の課題の形成に関わる歴史を概観し、興味・関心のある出来事を調べ、わかったことをまとめる。	
指導時間数の計		105					

